

令和 7 年度

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

自己点検・評価報告書



令和 8 年 3 月

構 成

1. はじめに	1
2. 点検・評価	2
2-1. 学生の関心や必要な知識・技術の体系的な修得	2
2-2. 教育プログラムの計画立案・公表	4
2-3. 履修を促す取り組み	4
2-4. 実績期間	4
2-5. 履修及び習得状況・学習成果	5
2-6. 点検・評価の公表	5
2-7. 学生の理解度・他の学生への推奨度	6
2-8. 履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	6
2-9. 修了者の進路・活躍状況・企業等の評価	6
2-10. 産業界等社会からの視点を含めた内容・手法	8
3. 授業改善アンケートの結果	9
3-1. データサイエンス基礎	9
3-2. データサイエンス・プログラム	11

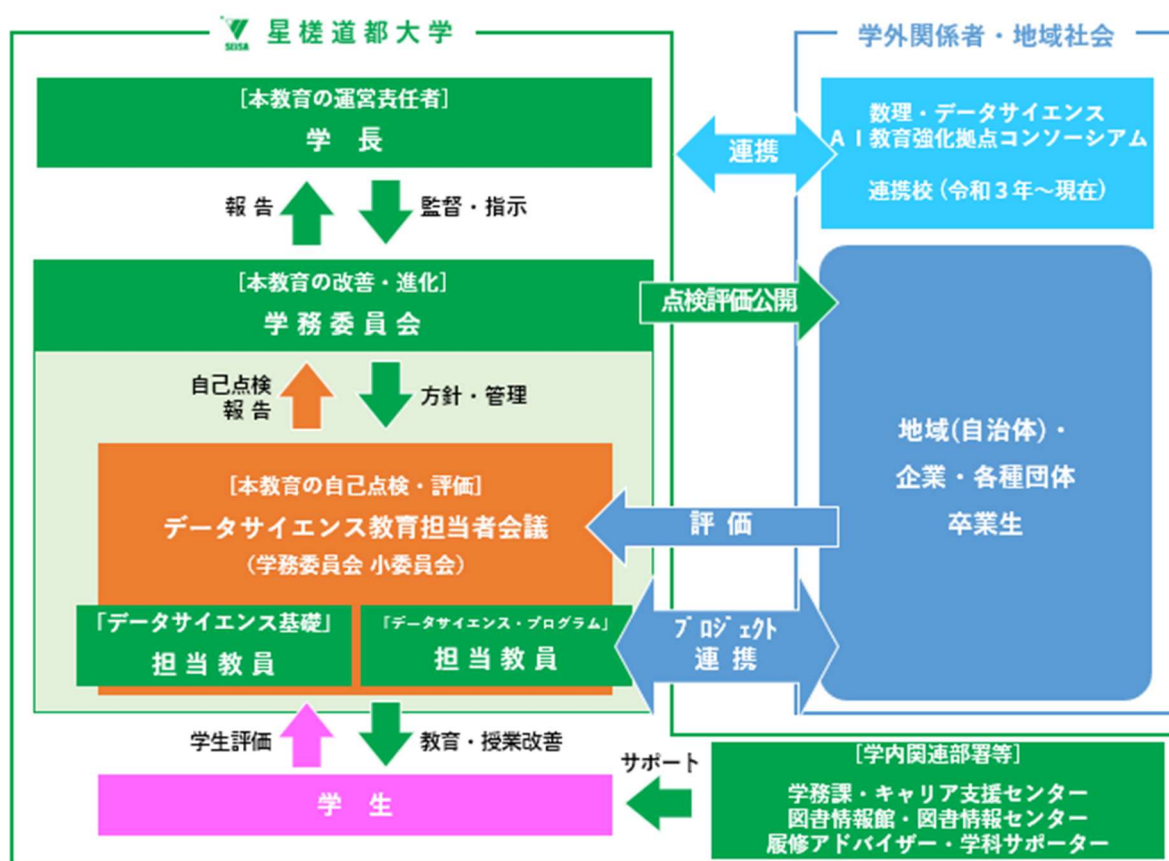
1. はじめに

本学にて実施した「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」(以下、本教育プログラム)の自己点検・評価を行った。

【自己点検・評価の体制】

本教育プログラムの実施にあたり、本教育プログラムの改善・進化を担う「学務委員会」、その学務委員会下部組織（小委員会）として「データサイエンス担当者会議」を設置し、学内の視点における自己点検・評価を行い、次年度の本教育プログラム・授業改善の指標とした。

組織名称	委員長・構成員
学務委員会	委員長：吉澤 英里（社会福祉学科・教授） 構成員：16名
データサイエンス教育担当者会議 (学務委員会 小委員会)	議長：由水 伸（経営学科・特任教授） 構成員：2名



【自己点検・評価の項目】

本教育プログラムにおける点検・評価項目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度実施要綱」第二条、及び「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）実施要綱細目」の3（6）の内容に準じて設定した。

【自己点検・評価の結果判定】

各点検・評価項目においては、次のとおり基準を設け、判定を行った。

判定結果	判定基準
良	当該項目を十分に達成したと認められる。
可	当該項目を達成したが、更なる改善の必要性が認められる。
要改善	当該項目を達成できず、早急に改善の検討が必要と認められる。

【自己点検・評価の対象科目】

本教育プログラムを構成する以下の科目を、点検・評価の対象とした。

科目名	形態	配当	概要
データサイエンス基礎	全学 共通 (必修)	1年	データサイエンスの意義と目的についての理解を踏まえ、数理・データサイエンス・AIを日常生活や実社会の場で活用できる基礎的素養を身につけ、統計学の知見に基づいたデータの加工・分析・表現技法の知識・技術を習得する。
データサイエンス・プログラム	全学 共通 (選択)	2年	数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を深めることを目的とし、地域社会が抱える課題に対して、データサイエンスの知識・技術を活用して解決する方策を導き出す実践力を習得する（プロジェクト型学習：PBL）。

2. 点検・評価

2-1. 学生の関心や必要な知識・技術の体系的な修得

項目	<p><要綱第二条第一項第一号（イ）> 学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成するために必要な知識及び技術を体系的に修得させる教育プログラムであるか。</p>
点検	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術の重要性が増す中、様々な分野でデータを活用して課題を解決できる人材の必要性が高まっている。そこで、本学では学生が数理・データサイエンス・AIに対する関心を持ち、これらを体系的に理解し、実際の課題解決に活用する基本的な能力を育成するためのDS教育を継続的に提供している。

	<ul style="list-style-type: none"> • 授業は学生の関心を引き出し、動機づける方法を取り入れ、基礎概念や原理を段階的に教え、実践的な能力育成を目指すと共に、理解度や育成過程を適切に評価し、建設的なフィードバックを行い、学生が授業外でも学習を継続できるようサポートしている。 • 「データサイエンス基礎」で習得した基礎的素養をもとに、分析や調査の実践を行う「データサイエンス・プログラム」をはじめ、「情報基礎演習Ⅰ」（全学必修科目・1単位）、「情報基礎演習Ⅱ」（全学必修科目・1単位）、「数学入門」（全学選択科目・2単位）、「統計学入門」（全学選択科目・2単位）、「基礎統計演習」（全学選択科目・2単位）といった関連科目を複数展開し、数理・情報リテラシー・データリテラシーについて、体系的に修得できる構成としている。 • 「データサイエンス・プログラム」では、プロジェクト型学習を用いて、データサイエンスに関する基礎知識を利活用し、自分たちで設定した仮想の地域課題を解決することを目的とした授業を展開した。
評価	<p>【判定：良】</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての学生に対してデータサイエンスの基礎的知識を普及させ、その重要性への理解と関心を高めることを目的として、「データサイエンス基礎」を必修科目として位置づけ、教育を実施している。 • 学生がそれぞれの興味・関心に応じて知識やスキルを段階的かつ体系的に身につけられるよう、実践的な科目を含む多様な関連授業を開講し、幅広い学習機会を提供している。 • 「データサイエンス・プログラム」はプロジェクト型学習（PBL）の形式で実施しており、「データサイエンス基礎」で修得した知識や分析手法を活用しながら地域課題の解決に取り組むことで、実践的な学習の場を提供している。 • 今後も学生がデータサイエンスを体系的に修得できる教育課程を維持するとともに、単位修得率の向上に向けた取り組みを継続していく予定である。

2-2. 教育プログラムの計画立案・公表

項目	<p><要綱第二条第一項第二号></p> <p>当該教育プログラムの名称、当該教育プログラムにおいて身に付けることのできる能力、修了要件、開設される授業科目、授業の方法及び内容並びに実施体制を記載した当該教育プログラムを実施するための計画を定め、公表しているか。</p>
点検	<ul style="list-style-type: none"> • 本学のDS教育概要や関連科目の授業の方法及び内容・実施体制等については、「データサイエンス基礎」の初回授業において、説明を行った。 • DS教育概要やシラバスは、本学Webサイトにて公表している。
評価	<p>【判定：良】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本科目の初回授業において、本学におけるデータサイエンス教育の概要、その意義、および科目体系について、スライド資料を用いながら学生に対して説明している。 • 本学のデータサイエンス教育の全体構成ならびに、「データサイエンス基礎」を含む関連科目のシラバスについては、学内外の関係者が閲覧できるよう公開している。

2-3. 履修を促す取り組み

項目	<p><要綱第二条第一項第三号></p> <p>学生に対し当該教育プログラムの履修を促す取組が行われているか。</p>
点検	<ul style="list-style-type: none"> • 「データサイエンス基礎」は全学必修科目であり、データサイエンスの基礎的素養を全学生が修得する体系としている。 • 「データサイエンス・プログラム」は選択科目ではあるが、多くの学生に修得を促すため、担当教員より「データサイエンス基礎」での告知や、関連資料の配布、学生への声掛け等を積極的に行っている。
評価	<p>【判定：良】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「データサイエンス基礎」は全学共通の必修科目として位置づけられており、本年度においては在籍するすべての学生がDS教育を履修し、修得している。 • 「データサイエンス・プログラム」および関連科目の履修を促進する取り組みを引き続き実施し、学生が数理・データサイエンス・AIに関する知識および技能を体系的に修得できるよう努めていく。

2-4. 実績期間

項目	<p><要綱第二条第一項第五号></p> <p>当該教育プログラムを一年以上実施した実績があること。</p>
点検	<ul style="list-style-type: none"> • 本学では令和3年度よりDS教育を展開している。
評価	<p>【判定：良】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1年以上の実績を有しており、今後も継続してDS教育を展開する。

2-5. 履修及び習得状況・学習成果

項目	教育プログラムの履修及び修得状況・学修成果（成績）に関する事項					
点検	<ul style="list-style-type: none"> 「データサイエンス基礎」「データサイエンス・プログラム」における履修者数・修了者数及び学修成績分布は下表の通りとなった。 					
	履修者数・修了者数					
	科目名		履修者数(人)	修得者数(人)	修得率(%)	
	データサイエンス基礎		281	227	80.7	
	データサイエンス・プログラム		64	62	96.9	
	「データサイエンス基礎」の学修成績分布					
	学修成績	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	F(不可)
	人数(人)	30	62	101	34	54
	構成比(%)	10.7	22.1	35.9	12.1	19.2
	「データサイエンス・プログラム」の学修成績分布					
学修成績	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	F(不可)	
人数(人)	18	30	13	1	2	
構成比(%)	28.1	46.9	20.3	1.6	3.1	
評価	<p>【評価：良】</p> <ul style="list-style-type: none"> いずれの科目も修得率 80%以上となった。 発展科目であるデータサイエンス・プログラムの修得率が、基礎科目であるデータサイエンス基礎の修得率を超えているのは、成績による履修制限をかけたためであり、学習意欲の高い学生が集まり修得率が向上したと考えられる。 今後も、授業改善アンケート等により学生の意見・要望を取り入れ、本教育プログラムにおける不断の改善を図っていく。 					

2-6. 点検・評価の公表

項目	<要綱第二条第一項第四号> 当該教育プログラムについて自ら点検及び評価を行い、その結果を公表していること。
点検	<ul style="list-style-type: none"> 本学のDS教育の内容・方針を定める「学務委員会」において、点検・評価を行い、本報告書を本学 Web サイトにて公開している。 全学的に授業改善を推進する「FD 推進委員会」が実施する授業改善アンケートの結果を踏まえ、授業改善を行っている。
評価	<p>【判定：良】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学におけるDS教育の自己点検・評価にあたっては、授業改善アンケートなどを

	<p>通じて学生から寄せられた意見や要望を反映させ、継続的な教育内容の改善に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当教員は、今後も LMS や学習成果可視化システム等を活用しながら学生の習熟状況をきめ細かく把握し、理解度の向上および学習意欲の促進に努めていく。
--	---

2-7. 学生の理解度・他の学生への推奨度

項目	学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項
点検	<ul style="list-style-type: none"> 授業最終回には、FD 推進委員会による授業改善アンケートが行われ、次年度に向けた授業計画の見直し・改善を全学的に実施している。 担当教員により、学習状況について LMS やグループウェア・対面での聞き取り等を行うことで授業期間中の学生のニーズに細やかに対応し、即時見直し・改善を図っている。
評価	<p>【判定：良】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も授業改善アンケートの結果を分析し、授業環境や授業計画・内容、授業方法、教材の理解しやすさ、コミュニケーションのあり方などについて評価を行い、継続的な改善に取り組んでいく。

2-8. 履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

項目	全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況
点検	<ul style="list-style-type: none"> 本学の DS 教育は、社会的背景や履修者数の向上を図るため、入門科目である「データサイエンス基礎」を全学必修科目としている。
評価	<p>【判定：良】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学必修科目として開講していることから、本項目については十分に達成されている。 関連科目との連携や授業内容の関連性について、今後も継続的に学生へ説明および周知を行っていく。

2-9. 修了者の進路・活躍状況・企業等の評価

項目	教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項
点検	<ul style="list-style-type: none"> 本教育プログラム修了者の進路状況について把握を行い、進学・就職先の分野との関連性を確認している。 今後は修了者の就職先企業等へのアンケートやヒアリングを通じて、活躍状況および企業等からの評価を把握し、本教育プログラムの改善に活用していく。
評価	<p>【判定：良】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本教育プログラム履修者の進路状況について、就職内定状況等のデータを基に把握を行っている。令和 8 年 3 月卒業予定者においては、学科全体で就職希望者 214 名のうち 180 名が内定しており、就職率は 84.1%となっている。

	<ul style="list-style-type: none">• 進路先は多様な業種にわたっており、情報関連企業やデータ活用を行う企業を含め、幅広い分野に学生が就職している。これらの進路状況から、本教育プログラムで修得した数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識が、社会における幅広い分野で活用される基盤となっていると考えられる。• 本年度は、本教育プログラム履修者の中から初めて卒業者が輩出された年度であるため、今後は修了者の進路状況および就職先企業等からの評価について継続的に把握し、教育プログラムの改善に活用していく予定である。
--	---

2-10. 産業界等社会からの視点を含めた内容・手法

項目	産業界等社会からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法に関する事項
点検	<ul style="list-style-type: none"> • 本学におけるデータサイエンス教育の企画および運営は、学長の下で行われ、全校をあげた組織である学務委員会や FD 推進委員会が、指導方針やカリキュラム内容、評価方法、改善策を担当している。これらのプロセスは、学外の意見を取り入れるために、理事会などの外部機関でも監督されている。 • 「データサイエンス基礎」では、刻々と変化する社会状況にいち早く対応し、データサイエンスに関する最新情報や技術情報を学生に提供するため、外部機関が作成・更新する LMS を導入し、動画視聴を主体とする e-Learning 科目としている。なお、習熟度の測定を定期的に行い、学生の習熟度に応じて、補講（毎週木曜日の 5・6 コマ目）・個別指導（適宜）を行った。また、担当教員のオフィスアワー以外の時間帯も、グループウェアを活用して、質問を受け付け、対応した。 • 「データサイエンス・プログラム」では、地域の課題解決に向け、基礎知識の利活用を実際に行い、実践力・データサイエンス的思考力の向上を図っている。
評価	<p>【判定：良】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「データサイエンス基礎」に関する学習支援については、今後も学生の学習状況や習熟度を定期的に把握し、その結果に応じた適切な支援を実施していく。 • 「データサイエンス・プログラム」の PBL においては、今後も本学習方法の利点を十分に活かすことができるよう、学生の取り組み姿勢や学習状況に十分配慮しながら、効果的な指導の実施に努めていく。

3. 授業改善アンケートの結果

3-1. データサイエンス基礎

回答者数：220（回答率：78.3%）



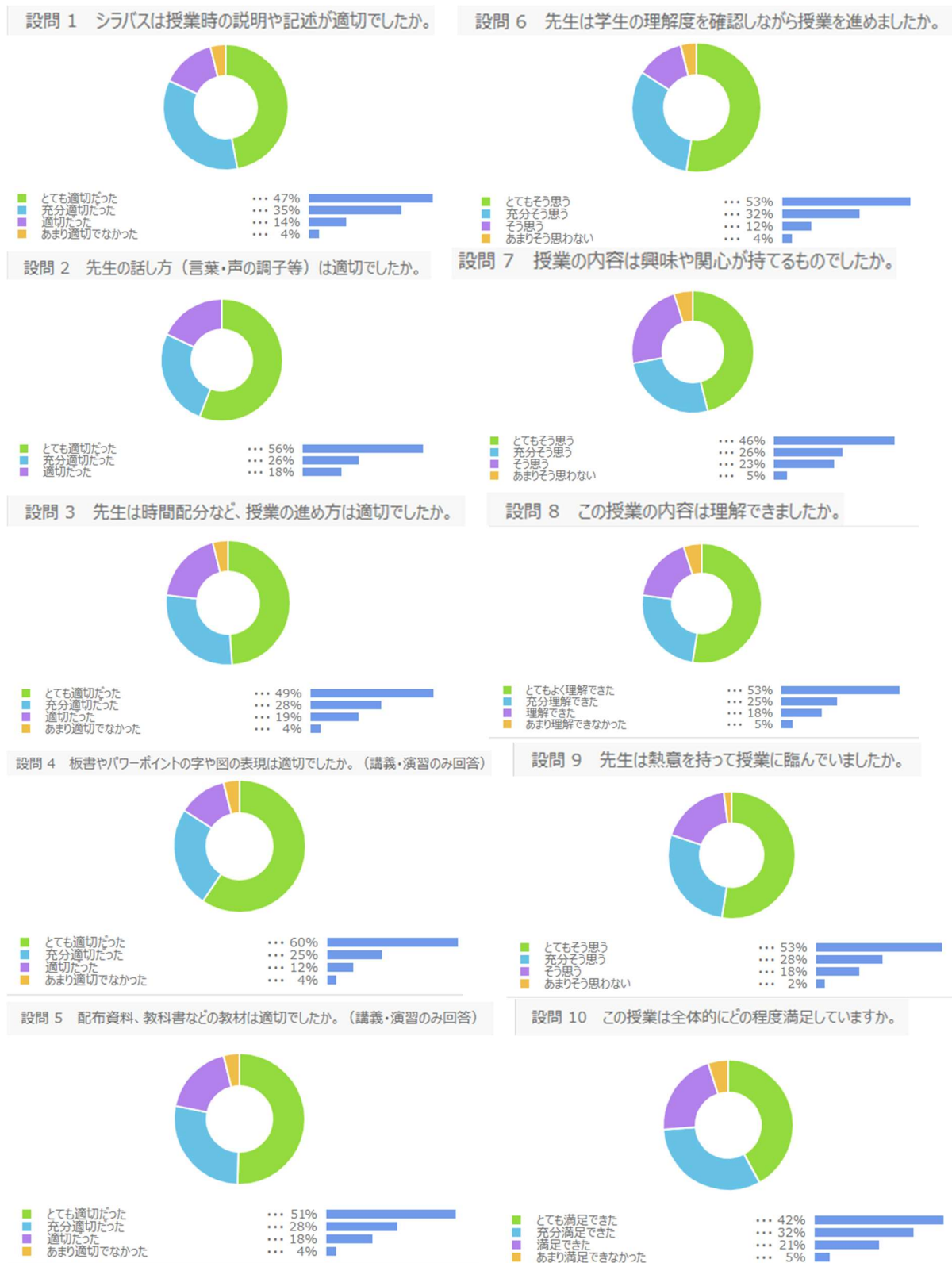
【授業改善アンケートの結果を受けて】

本授業の授業改善アンケートでは、回答率 78.3%と多くの学生から意見を得ることができた。教材やスライド資料については比較的高い評価が得られており、授業内容の理解を支える教材として一定の効果があったと考えられる。一方で、授業内容の理解度や満足度については改善の余地が見られ、学生の理解度をより丁寧に確認しながら授業を進める必要があることが明らかとなった。

また、自由記述ではノート提出課題の量や実施方法、シラバスとの整合性について複数の指摘があった。今後は授業計画や評価方法を事前により明確に提示するとともに、学習成果を確認する方法についても学生の負担や学習効果を考慮しながら改善を図っていく。引き続き学生の意見を参考にしながら、授業内容および授業運営の改善に取り組んでいきたい。

3-2. データサイエンス・プログラム

回答者数：57（回答率：89.1%）



【授業改善アンケートの結果を受けて】

本授業の授業改善アンケートでは、回答率 89.1%と多くの学生から意見を得ることができた。アンケート結果から、授業の進め方、教材、説明の分かりやすさなどの項目において高い評価が得られており、特に授業全体の満足度および理解度については多くの学生が肯定的に評価していることが確認できた。

また、自由記述では、グループワークによる課題解決型学習（PBL）や実際の課題を対象としたデータ分析、Excel のピボットテーブルなどの実践的な技能習得に対して多くの肯定的な意見が見られた。これらの結果から、本授業の実践的な学習方法が学生の理解や関心の向上に寄与しているものと考えられる。

一方で、PC 操作や Excel の利用経験に差がある学生への配慮や、作業手順の共有方法、グループワークにおける役割分担などについて改善を求める意見も見られた。今後は学生の ICT スキルの差にも配慮しながら、説明方法や資料の共有方法を工夫するとともに、グループ活動の運営方法についても改善を図っていきたい。